

平成 22 年

高松市消費者物価指数の動き

Consumer Price Index

香川県政策部統計調査課

# 目 次

## I 概 況

### 1 平成22年高松市消費者物価指数の動向

- (1) 概 況 ..... 1
- (2) 費目別指数の動き ..... 6
- (3) 月別指数の動き ..... 9
- (4) 寄 与 度 ..... 13

### 2 平成21年平均消費者物価地域差指数の概況 ..... 14

## II 参 考

- 1 消費者物価指数のしくみと見方（利用者のために） ..... 17
- 2 中分類別ウエイト（高松市・全国） ..... 26
- 3 基本分類表 ..... 27
- 4 家計調査 ..... 31

# I 概 況

# 1 平成22年高松市消費者物価指数の動向

☆☆☆ 総合指数☆☆☆ 総合指数99.4 対前年上昇率△0.6% ☆☆☆

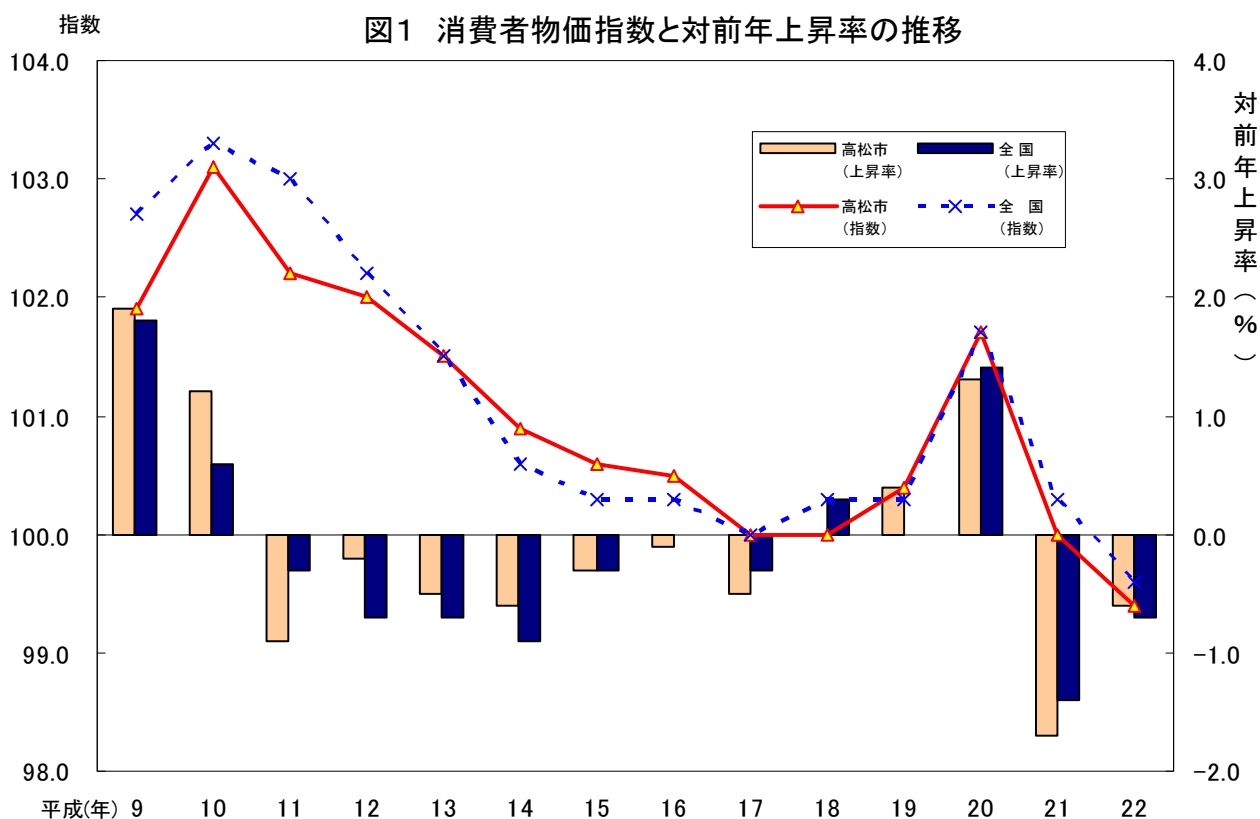
## (1) 概況

平成22年平均の高松市消費者物価指数は、平成17年平均を100とした総合指数で99.4となり、前年より0.6%下落した。

近年の総合指数の動きを対前年比で見ると、平成9年には消費税率の引き上げなどにより1.9%と平成4年以来5年ぶりに1%を超える上昇率となり、平成10年も1.2%と、引き続き1%を超える上昇率となった。ところが平成11年は0.9%の下落となり、昭和46年以降最大の下落率となるなど、平成17年まで7年連続の下落となりデフレ傾向が続いた。

その後、世界的な原油や穀物価格の高騰もあって、平成19年・20年は上昇になったが、平成21年は過去最大の1.7%の下落となり、平成22年においても下落となった。

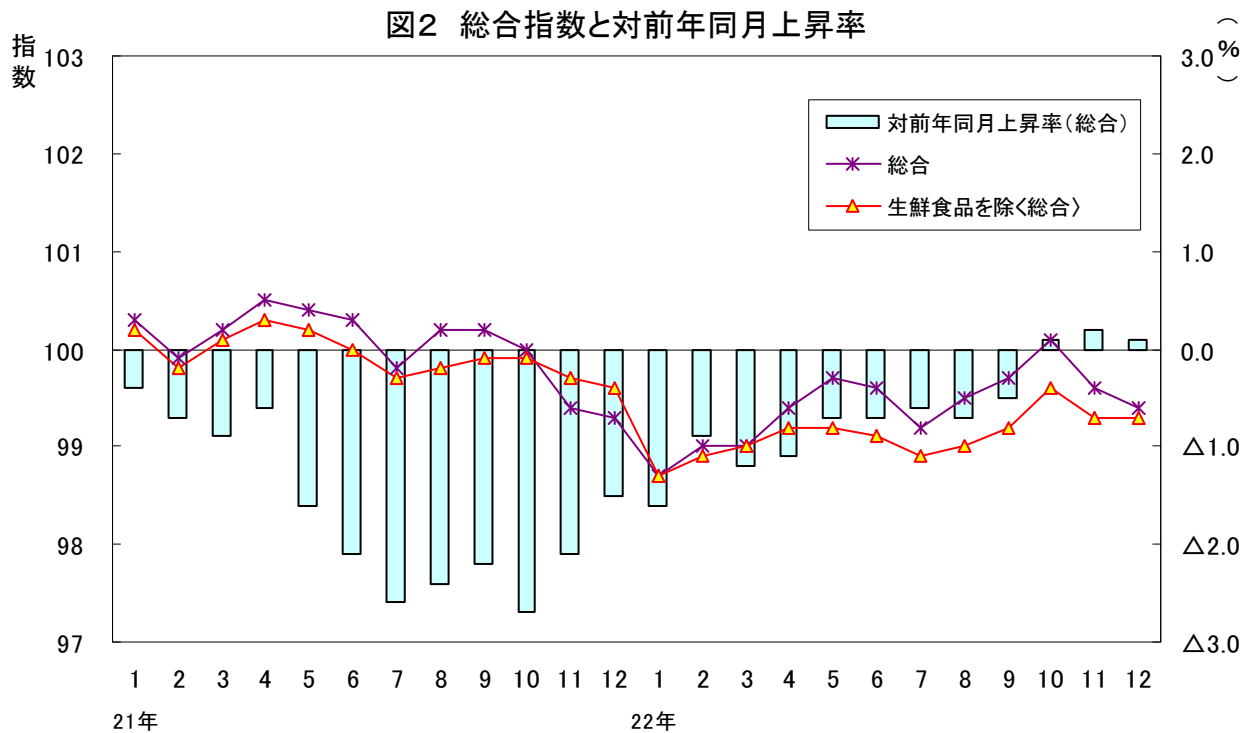
一方、全国の平成22年平均総合指数も99.6で、前年比0.7%の下落となった。



また、この1年間の総合指数の動きを対前年同月比で見ると、1月は（－）1.6%、2月は（－）0.9%、3月は（－）1.2%、4月は（－）1.1%、5月は（－）0.7%、6月は（－）0.7%、7月は（－）0.6%、8月は（－）0.7%、9月は（－）0.5%と9ヶ月連続して下落したが、10月は0.1%、11月は0.2%、12月は0.1%と3ヶ月連続して上昇した。

年平均は0.6%の下落となった。

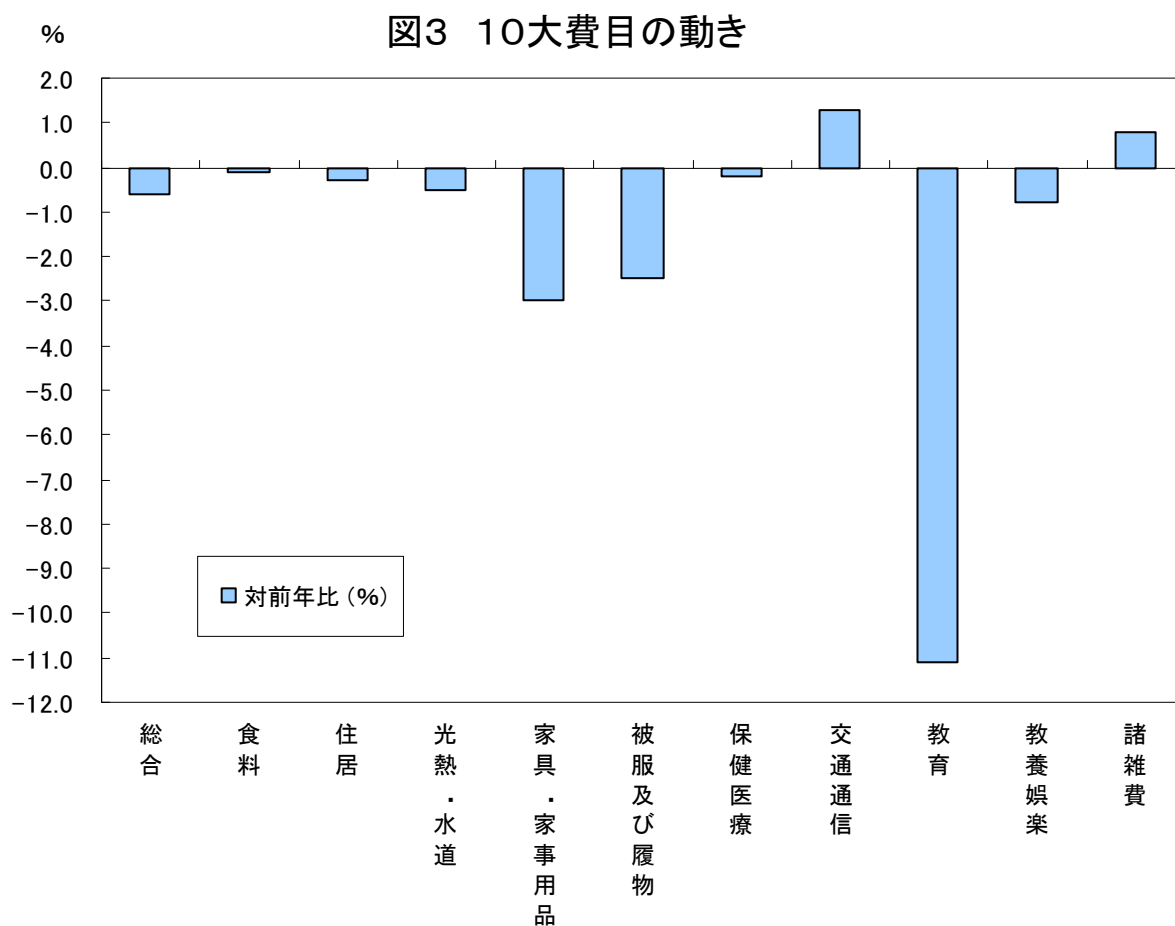
その理由としては、「交通・通信」は年間を通じて前年同月比が上昇したが、「教育」、「家具・家事用品」、「被服及び履物」、「教養娯楽」、「保健医療」など多くの費目で年間を通じて前年同月比が下落傾向にあったためである。



10大費目別指数の動きを対前年比で見ると、「教育」が授業料等などの値下がりにより11.1%、「家具・家事用品」が家庭用耐久財などの値下がりにより3.0%、「被服及び履物」がシャツ・セーター類などの値下がりにより2.5%、「教養娯楽」が教養娯楽用耐久財などの値下がりにより0.8%、「光熱・水道」がガス代などの値下がりにより0.5%、「住居」が設備修繕・維持などの値下がりにより0.3%、「保健医療」が保健医療用品・器具などの値下がりにより0.2%、「食料」が生鮮魚介などの値下がりにより0.1%、それぞれ下落した。

一方、「交通・通信」が自動車等関係費などの値上がりにより1.3%、「諸雑費」がたばこなどの値上がりにより0.8%、それぞれ上昇した。

なお、生鮮食品を除く総合指数は99.1で前年に比べ0.8%下落、持家の帰属家賃を除く総合指数は100.0で前年に比べ0.7%下落した。





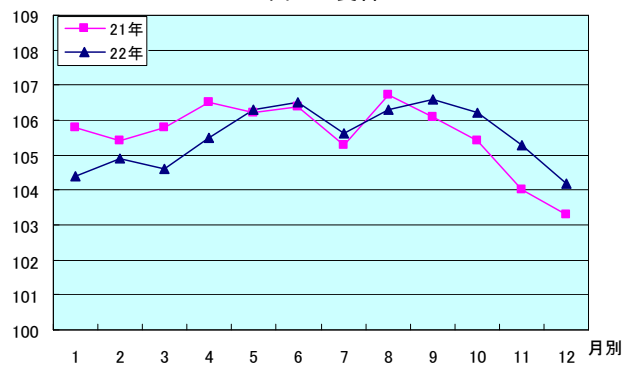
## (2) 費目別指数の動き

◇◆食料◆◇ 指数105.5 前年比(-)0.1%

生鮮食品についてみると、生鮮魚介が4.0%下落、生鮮野菜が9.0%、生鮮果物が4.6%上昇した。

果物が4.5%、野菜・海藻が4.3%、乳卵類が0.8%、菓子類が0.6%、外食が0.1%、それぞれ上昇したが、飲料が3.0%、油脂・調味料が2.9%、魚介類が1.6%、穀類が1.1%、肉類が1.0%、調理食品0.7%、酒類が0.5%それぞれ下落し、全体で0.1%下落した。

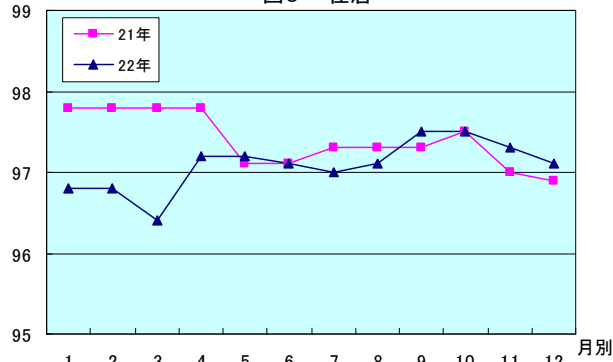
図5 食料



◇◆住居◆◇ 指数97.1 前年比(-)0.3%

家賃は前年と同水準だが、設備修繕・維持が1.1%下落し、全体で0.3%下落した。

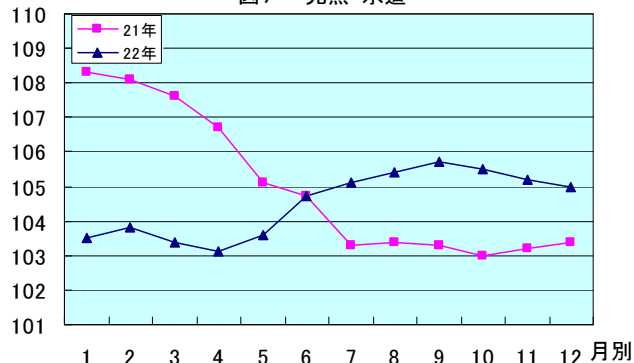
図6 住居



◇◆光熱・水道◆◇ 指数104.5 前年比(-)0.5%

他の光熱が17.6%、上下水道料が2.5%、それぞれ上昇したが、ガス代が2.3%、電気代が2.1%それぞれ下落し、全体で0.5%下落した。

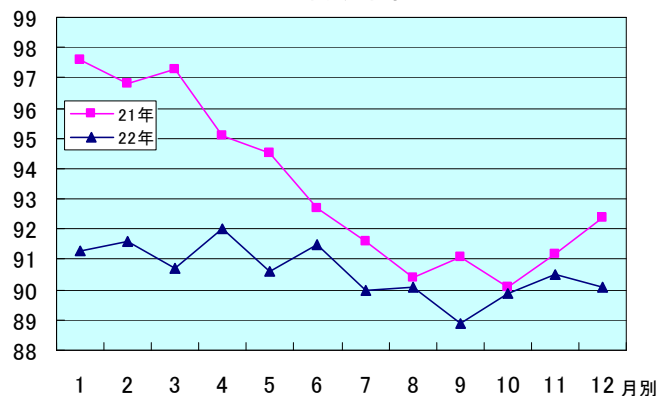
図7 光熱・水道



◇◆家具・家事用品◆◇ 指数90.6 前年比(-)3.0%

室内装備品が1.9%上昇したが、家庭用耐久財が5.4%、家事用消耗品が4.3%、寝具類が3.2%、家事雑貨が1.9%それぞれ下落し、全体で3.0%下落した。

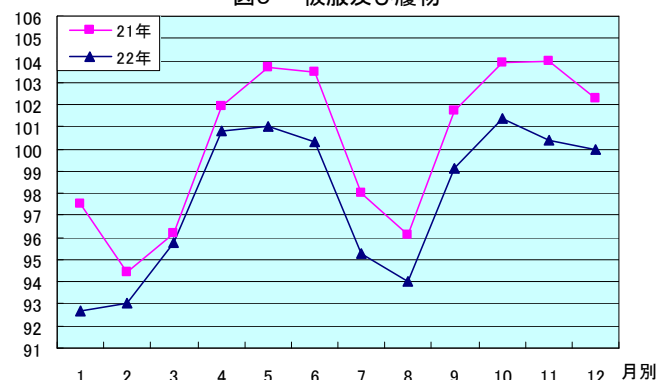
図8 家具・家事用品



◇◆被服及び履物◆◇ 指数97.8 前年比(-)2.5%

他の被服類が3.4%、被服関連サービスが0.5%それぞれ上昇したが、シャツ・セーター・下着類が5.6%、履物類が2.7%、衣料が1.4%それぞれ下落し、全体で2.5%下落した。

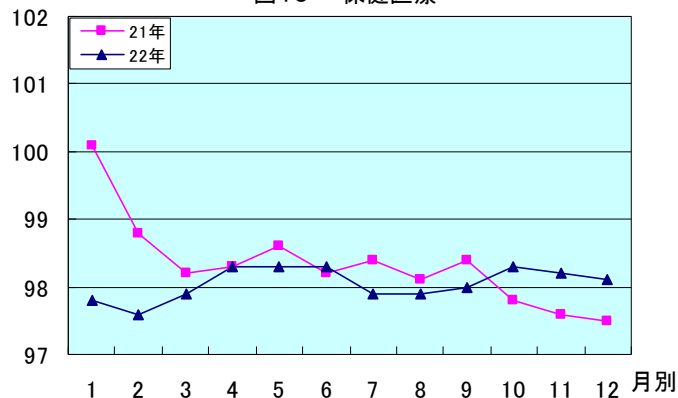
図9 被服及び履物



◇◆保健医療◆◇ 指数98.1 前年比(-)0.2%

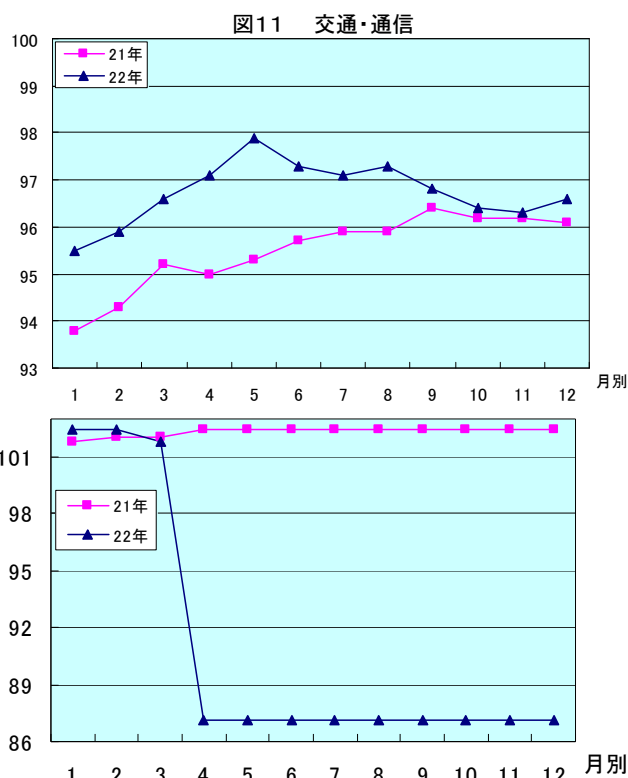
保健医療サービスが0.5%上昇したが、保健医療用品・器具が2.8%、医薬品・健康保持用摂取品が0.4%それぞれ下落し、全体で0.2%下落した。

図10 保健医療



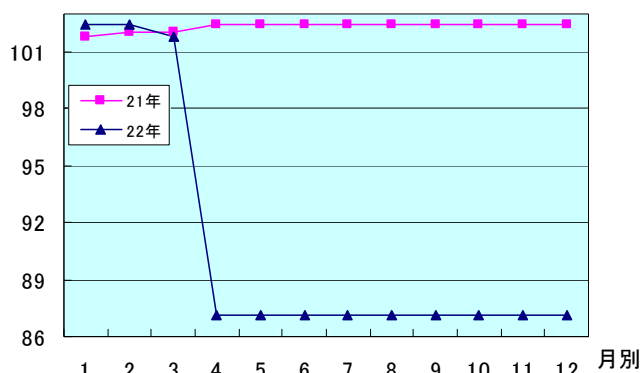
◇◆交通・通信◆◇ 指数96.7 前年比(+1.3%)

交通が1.0%、通信0.6%、それぞれ下落したが、自動車等関係費が2.9%上昇し、全体で1.3%上昇した。



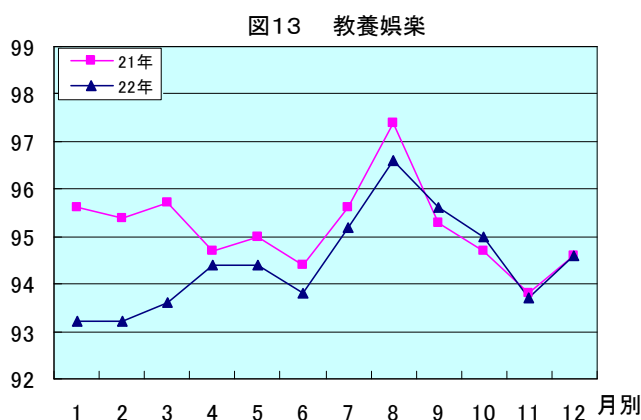
◇◆教育◆◇ 指数90.9 前年比(-11.1%)

教科書・学習参考教材が0.9%上昇したが、授業料等が15.5%、補習教育が1.8%それぞれ下落し、全体で11.1%下落した。



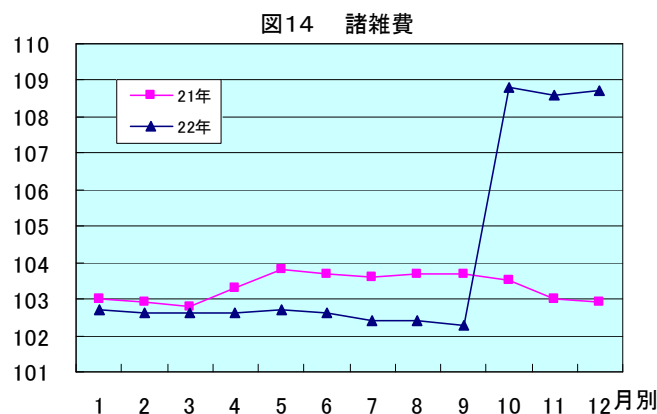
◇◆教養娯楽◆◇ 指数94.4 前年比(-0.8%)

書籍・他の印刷物が0.2%、教養娯楽用品が0.1%それぞれ上昇したが、教養娯楽用耐久財が17.4%、教養娯楽サービスが0.1%それぞれ下落し、全体で0.8%下落した。



◇◆諸雑費◆◇ 指数104.1 前年比(+0.8%)

身の回り用品が5.7%、理美容サービスが0.4%それぞれ下落したが、たばこが9.6%、他の諸雑費が2.1%それぞれ上昇し、全体で0.8%上昇した。



### (3) 月別指数の動き

【1月】…総合指数 98.7 前月比(-)0.6

前月からの主な動きをみると、10大費目では、食料が1.1%、保健医療が0.3%、光熱・水道が0.1%上昇したが、被服及び履物が9.4%、教養娯楽が1.5%、家具・家事用品が1.2%、交通・通信が0.6%、諸雑費が0.2%、住居が0.1%下落し、全体では0.6%下落になった。

上昇した主な項目は、果物が9.9%、保健医療用品・器具が1.6%、ガス代が0.5%であり、下落した主な項目は、衣料が13.4%、寝具類が6.7%、教養娯楽用耐久財が3.8%、身の回り用品が2.2%であった。

一方、前年同月比は1.6%の下落となった。

【2月】…総合指数99.0 前月比(+ )0.3

保健医療が0.2%、諸雑費が0.1%下落したが、食料が0.5%、交通・通信が0.4%、光熱・水道、家具・家事用品、被服及び履物がそれぞれ0.3%上昇し、全体では0.3%の上昇となった。

上昇した主な項目は、他の光熱が7.0%、果物が6.2%、家事用消耗品が3.7%、衣料が1.8%、自動車等関係費が1.0%であり、下落した主な項目は、保健医療用品・器具が2.2%、理美容用品が0.6%であった。

一方、前年同月比は0.9%の下落となった。

【3月】…総合指数99.0 前月比0.0

被服及び履物が3.0%、交通・通信が0.7%、教養娯楽が0.4%、保健医療が0.3%上昇したが、家具・家事用品が1.0%、教育が0.6%、住居が0.4%、光熱・水道が0.4%、食料が0.3%下落し、全体では前月と同水準であった。

上昇した主な項目は、履物類が10.6%、保健医療用品・器具が1.4%、交通が1.1%、教養娯楽サービスが0.7%であり、下落した主な項目は、野菜・海藻が3.4%、家事用消耗品が2.5%、補習教育が2.2%、ガス代が1.8%、設備修繕・維持が0.7%であった。

一方、前年同月比は1.2%の下落となった。

図15 対前月上昇率(10大費目別)

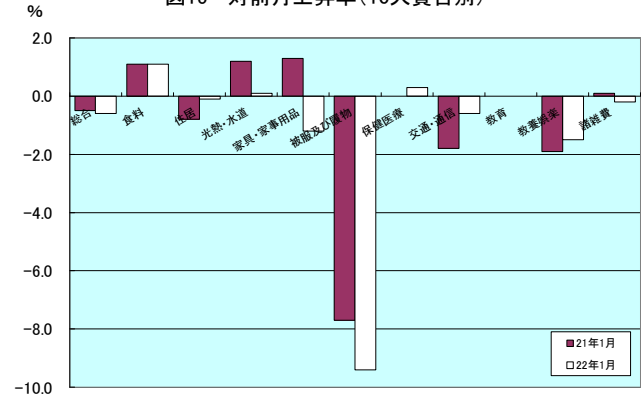


図16 対前月上昇率(10大費目別)

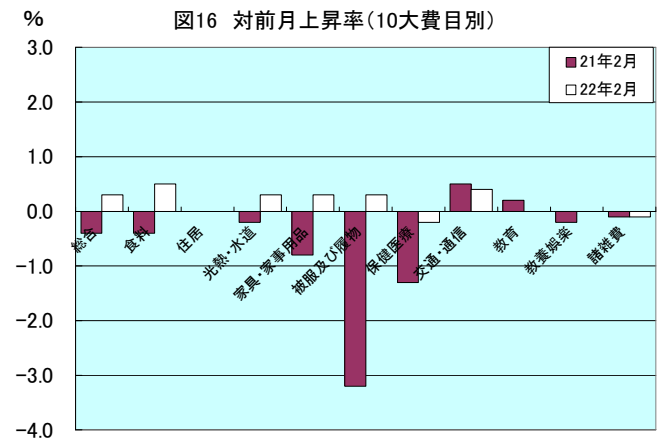
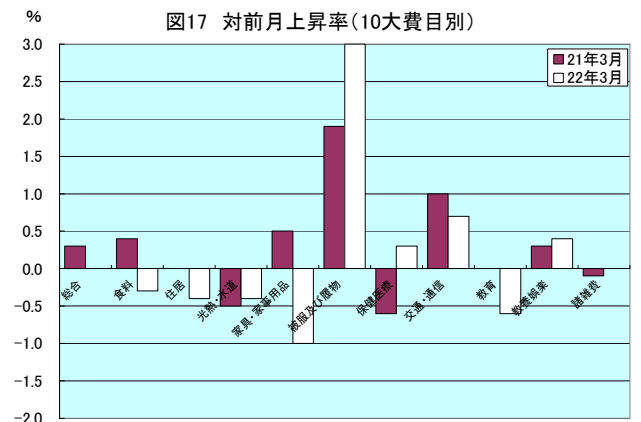


図17 対前月上昇率(10大費目別)



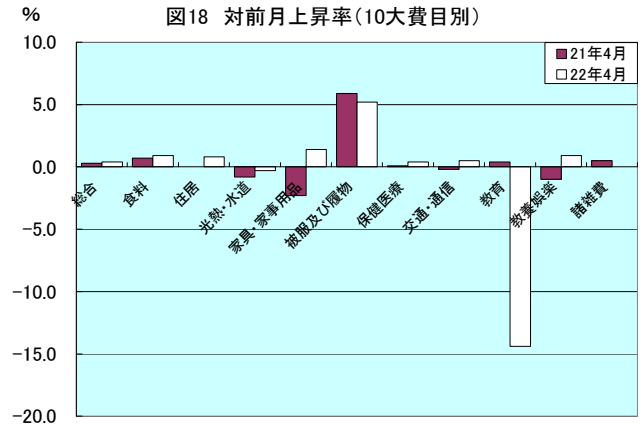
【4月】…総合指数99.4 前月比(+) $0.4$

教育が14.4%、光熱・水道が0.3%下落したが、被服及び履物が5.2%、家具・家事用品が1.4%、食料、教養娯楽がそれぞれ0.9%、住居が0.8%、交通・通信が0.5%上昇し、全体では0.4%の上昇となった。

上昇した主な項目は、野菜・海藻が9.1%、シャツ・セーター・下着類が7.8%、寝具類が3.7%、教養娯楽用耐久財が2.6%、家賃、自動車等関係費がそれぞれ1.1%、医薬品・健康保持用摂取品が0.6%であり、下落した主な項目は、授業料等が20.8%、電気代が0.9%であった。

一方、前年同月比は、1.1%の下落となった。

図18 対前月上昇率(10大費目別)



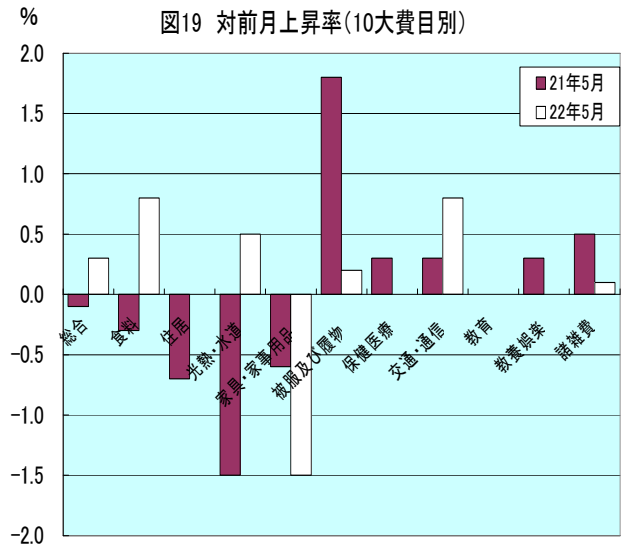
【5月】…総合指数99.7 前月比(+) $0.3$

家具・家事用品が1.5%下落したが、食料、交通・通信がそれぞれ0.8%、光熱・水道が0.5%、被服及び履物が0.2%、諸雑費が0.1%上昇し、全体では0.3%の上昇となった。

上昇した主な項目は、果物が13.8%、他の光熱が7.3%、衣料、自動車等関係費がそれぞれ1.5%、理美容用品が0.1%であり、下落した主な項目は、家庭用耐久財が4.8%であった。

一方、前年同月比は、0.7%の下落となった。

図19 対前月上昇率(10大費目別)



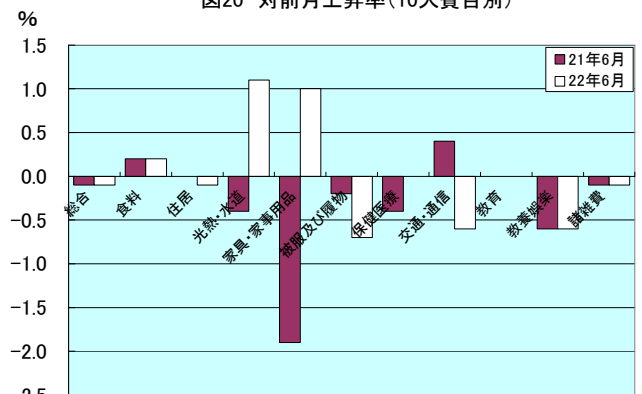
【6月】…総合指数99.6 前月比(-) $0.1$

光熱・水道が1.1%、家具・家事用品が1.0%、食料が0.2%上昇したが、被服及び履物が0.7%、交通・通信、教養娯楽がそれぞれ0.6%、住居、諸雑費が0.1%それぞれ下落し、全体では0.1%の下落となった。

上昇した主な項目は、果物が18.4%、上下水道料が4.2%、室内装備品が1.8%であり、下落した主な項目は、教養娯楽用品が2.7%、シャツ・セーター・下着類が1.1%、自動車等関係費が0.8%、設備修繕・維持が0.6%、理美容用品が0.2%であった。

一方、前年同月比は、0.7%の下落となった。

図20 対前月上昇率(10大費目別)



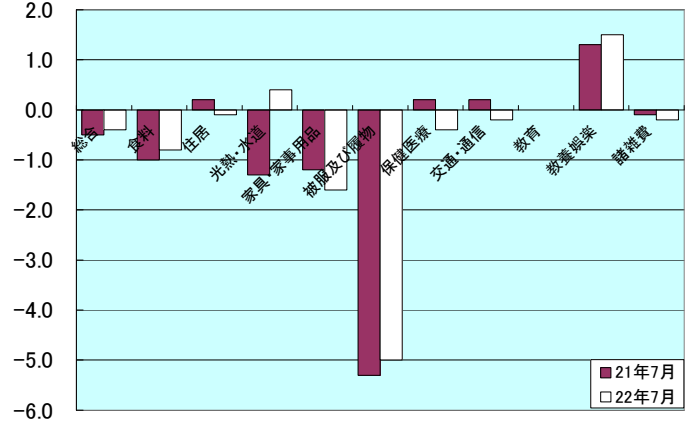
【7月】…総合指数99.2 前月比(-)0.4

教養娯楽が1.5%、光熱・水道が0.4%上昇したが、被服及び履物が5.0%、家具・家事用品が1.6%、食料が0.8%、保健医療が0.4%、交通・通信、諸雑費がそれぞれ0.2%、住居が0.1%下落し、全体では0.4%の下落となった。

上昇した主な項目は、教養娯楽用品が3.7%、ガス代が1.0%であり、下落した主な項目は、果物が20.1%、シャツ・セーター・下着類が8.5%、家事雑貨が2.7%、保健医療用品・器具が2.6%、理美容サービスが0.8%、設備修繕・維持、自動車等関係費が0.5%であった。

一方、前年同月比は、0.6%の下落となった。

図21 対前月上昇率(10大費目別)



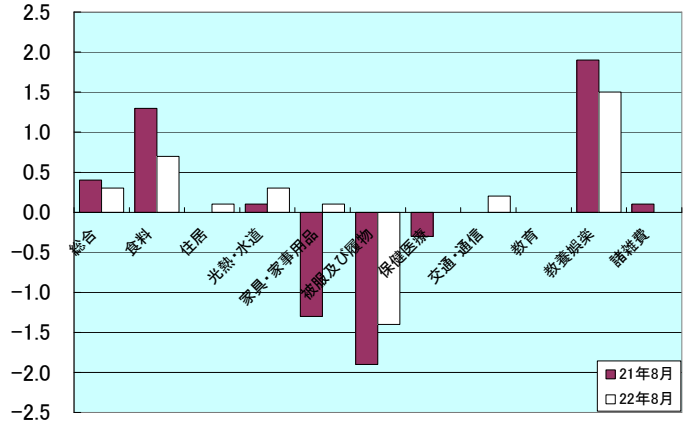
【8月】…総合指数99.5 前月比(+ )0.3

被服及び履物が1.4%下落したが、教養娯楽が1.5%、食料が0.7%、光熱・水道が0.3%、交通・通信が0.2%、住居、家具・家事用品がそれぞれ0.1%上昇し、全体では0.3%上昇した。

上昇した主な項目は、魚介類が5.5%、教養娯楽サービスが2.5%、交通が1.8%、家庭用耐久財が1.2%、設備修繕・維持が0.5%、電気代が0.4%であり、下落した主な項目は、履物類が2.3%であった。

一方、前年同月比は、0.7%の下落となった。

図22 対前月上昇率(10大費目別)



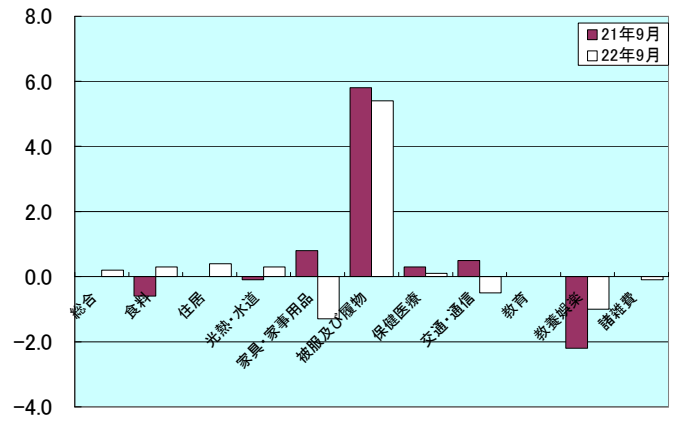
【9月】…総合指数99.7 前月比(+ )0.2

家具・家事用品が1.3%、教養娯楽が1.0%、交通・通信が0.5%、諸雑費が0.1%下落したが、被服及び履物が5.4%、住居が0.4%、食料、光熱・水道がそれぞれ0.3%、保健医療が0.1%上昇し、全体では0.2%上昇した。

上昇した主な項目はシャツ・セーター・下着類が8.6%、果物が4.9%、設備修繕・維持が2.0%、保健医療用品・器具が0.7%、電気代が0.5%であり、下落した主な項目は、家庭用耐久財が4.6%、交通が2.6%、教養娯楽サービスが1.9%、理美容用品が0.2%であった。

一方、前年同月比は、0.5%の下落となった。

図23 対前月上昇率(10大費目別)



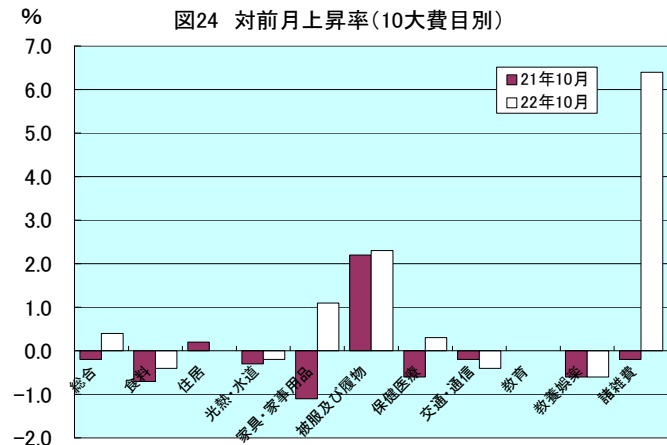
【10月】…総合指数100.1 前月比(+) 0.4

教養娯楽が0.6%、食料、交通・通信がそれぞれ0.4%、光熱・水道が0.2%下落したが、諸雑費が6.4%、被服及び履物が2.3%、家具・家事用品が1.1%、保健医療が0.3%上昇し、全体では0.4%の上昇となった。

上昇した主な項目は、たばこが38.6%、室内装備品が4.9%、シャツ・セーター・下着類が3.5%、保健医療用品・器具が1.7%であり、下落した主な項目は、魚介類が6.3%、他の光熱が3.4%、教養娯楽用品1.2%、自動車等関係費が1.0%であった。

一方、前年同月比は、0.1%の上昇となった。

図24 対前月上昇率(10大費目別)



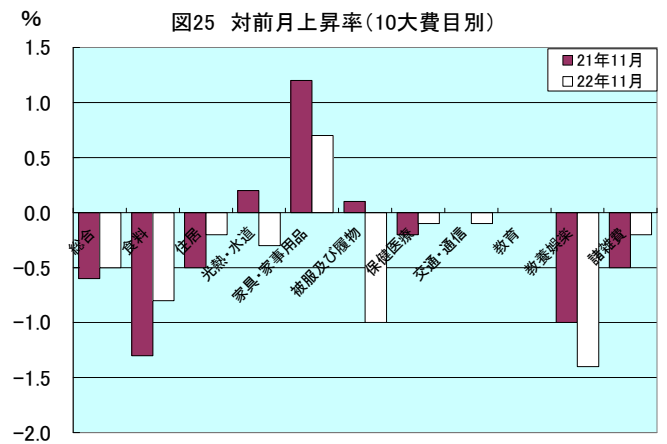
【11月】…総合指数99.6 前月比(-)0.5

家具・家事用品が0.7%上昇したが、教養娯楽が1.4%、被服及び履物が1.0%、食料が0.8%、光熱・水道が0.3%、住居、諸雑費がそれぞれ0.2%、保健医療、交通・通信がそれぞれ0.1%下落し、全体では0.5%下落した。

上昇した主な項目は、寝具類が4.7%であり、下落した主な項目は、果物が24.2%、履物類が2.7%、教養娯楽用品が2.4%、理美容用品が1.2%、設備修繕・維持が0.9%、保健医療用品・器具が0.8%であった。

一方、前年同月比は、0.2%の上昇となった。

図25 対前月上昇率(10大費目別)



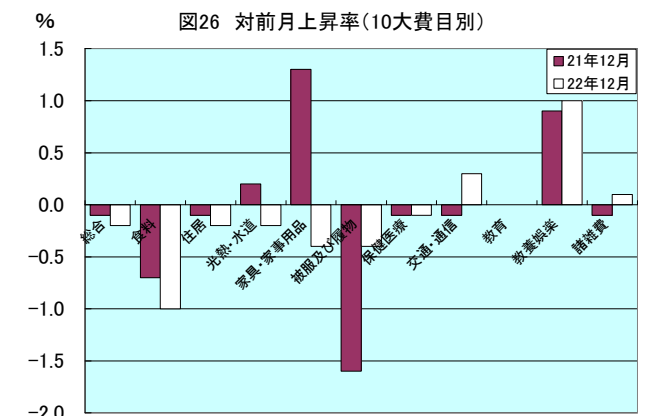
【12月】…総合指数99.4 前月比(-)0.2

教養娯楽が1.0%、交通・通信が0.3%、諸雑費が0.1%上昇したが、食料が1.0%、家具・家事用品、被服及び履物がそれぞれ0.4%、住居、光熱・水道がそれぞれ0.2%、保健医療が0.1%下落し、全体では0.2%の下落となった。

上昇した主な項目は、教養娯楽用品が1.6%、交通が1.1%、身の回り用品が0.3%であり、下落した主な項目は、野菜・海藻が5.9%、他の被服類が5.5%、家事用消耗品が2.1%、設備修繕・維持が0.9%、保健医療用品・器具が0.6%、電気代が0.4%であった。

一方、前年同月比は、0.1%の上昇となった。

図26 対前月上昇率(10大費目別)



## (4) 寄 与 度

寄与度とは、ある費目または指数の変動が、総合指数の変動にどの程度の影響を与えるかを示したものであり、各費目の寄与度を計算してみると、次のとおりである。

平成22年の寄与度を10大費目別にみると、指数の下落に寄与したものは、教育の(-)0.39が最も大きく、以下、被服及び履物が(-)0.13、家具・家事用品が(-)0.10、教養娯楽が(-)0.09、住居が(-)0.06、光熱・水道が(-)0.03、食料が(-)0.02、保健医療が(-)0.01となっている。

一方、上昇に寄与したものは、交通・通信が0.15、諸雑費が0.05となっている。

これを平成21年の寄与度と比べてみると、食料、教育は上昇から下落に転じ、交通・通信は下落から上昇に転じ、諸雑費は上昇傾向にあり、また、住居、光熱・水道、家具・家事用品、被服及び履物、保健医療、教養娯楽は下落傾向が続いている。

さらに、中分類項目別にみると、下落に寄与したのは、授業料等が(-)0.37、シャツ・セーター・下着類が(-)0.10、電気代が(-)0.07、家庭用耐久財が(-)0.06、設備修繕・維持が(-)0.05、魚介類が(-)0.04、保健医療用品・器具が(-)0.02、教養娯楽サービスが(-)0.01となっている。

10大費目別 対前年上昇率及び寄与度				表1	
費目	対前年上昇率		寄与度		
	(%)		22年	21年	
	22年	21年	22年	21年	
総合	-0.6	-1.7	-0.60	-1.67	
食料	-0.1	1.1	-0.02	0.29	
住居	-0.3	-1.6	-0.06	-0.33	
光熱・水道	-0.5	-3.0	-0.03	-0.20	
家具・家事用品	-3.0	-4.1	-0.10	-0.14	
被服及び履物	-2.5	-1.5	-0.13	-0.08	
保健医療	-0.2	-1.8	-0.01	-0.09	
交通・通信	1.3	-6.8	0.15	-0.87	
教育	-11.1	0.6	-0.39	0.02	
教養娯楽	-0.8	-2.6	-0.09	-0.29	
諸雑費	0.8	0.0	0.05	0.00	

※寄与度…四捨五入の関係で、合計と内訳は必ずしも一致しない。

### 〔変動に寄与した主な品目〕

10大費目	中分類	品目
食料	…魚介類	…いわしなど
住居	…設備修繕・維持	…温水洗浄便座など
光熱・水道	…ガス代	…ガス代
家具・家事用品	…家庭用耐久財	…冷蔵庫など
被服及び履物	…シャツ・セーター類	…婦人ブラウスなど
保健医療	…保健医療用品・器具	…紙おむつなど
交通・通信	…自動車等関係費	…ガソリンなど
教育	…授業料等	…高校授業料など
教養娯楽	…教養娯楽用耐久財	…テレビなど
諸雑費	…たばこ	…たばこ

## 2 平成21年平均消費者物価地域差指数の概況

☆☆☆ 高松市は 99.5 全国都道府県庁所在都市中 第42位 ☆☆☆

消費者物価指数が消費者物価の時間的な変動を示すのに対し、消費者物価地域差指数は、物価水準の場所的な差、地域間格差を示すもので、毎月公表されている消費者物価指数の副次的統計として、毎年1回公表されている。

平成21年平均消費者物価地域差指数（全国平均＝100）を都市階級別にみると、総合指数（持家の帰属家賃を除く総合、以下同じ）は、大都市が104.3で最も高く、中都市が100.0、小都市Aが98.7、小都市B・町村が97.1、となっており、総じて人口規模の大きい都市の物価水準が高いことを示している。また、大都市と町村の物価水準の格差を最近10年間で見ると、平成11年には9.2%と大きかったが、縮小傾向が徐々に始まり、平成12年以降は7%台に縮小した。平成15年以降は再び拡大傾向になったが、平成18年をピークに縮小傾向が続いている。

表2. 都市階級別 消費者物価地域差指数（総合）（全国平均＝100）

都市階級	年次	平成11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
1)	大都市	105.2	104.7	104.6	104.5	104.8	104.7	104.7	104.8	104.7	104.5	104.3
	中都市	99.5	100.2	100.1	100.0	100.1	100.1	100.0	100.1	100.2	100.1	100.0
	小都市A	97.7	98.4	98.4	98.4	98.3	98.5	98.5	98.4	98.4	98.5	98.7
	小都市B	96.5	97.1	97.0	97.1	97.1	97.3	96.7	96.6	97.0	97.0	97.1
	町村	96.3	97.4	97.6	97.5	97.6	97.1	96.7	96.6	96.7	97.0	—
2)	大都市と町村の格差(%)	9.2	7.5	7.2	7.2	7.4	7.8	8.3	8.5	8.3	7.7	7.4

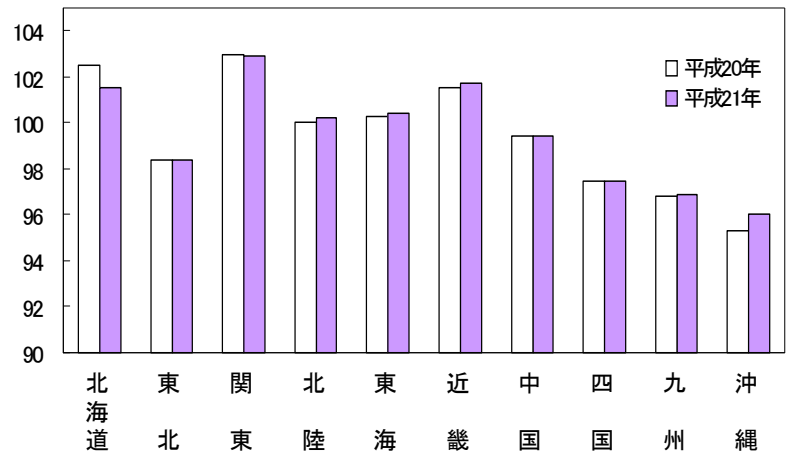
注：1) 大都市……政令指定都市(新潟市,静岡市浜松市及び岡山市を除く)及び東京都区部  
 中都市……人口15万以上100万未満の市及び新潟市,静岡市、浜松市及び岡山市  
 小都市A…〃5万以上15万未満の市  
 小都市B…〃5万未満の市 →小都市B・町村…人口5万未満の市・町村  
 (平成21年から)

$$2) \text{ 大都市と町村の格差} = \frac{\text{大都市指数} - \text{町村指数}}{\text{町村指数}} \times 100$$

地方別にみると、首都圏をかかえる関東が102.9で最も高く、次いで近畿が101.7、北海道が101.6、東海が100.4、北陸が100.2となっており、これら5地方が全国平均を上回った。

一方、最も低いのは沖縄の96.0で、次いで九州が96.9、四国が97.5、東北が98.4、中国が99.4となった。

図27 地方別消費者物価地域差指数(総合) (全国平均=100)

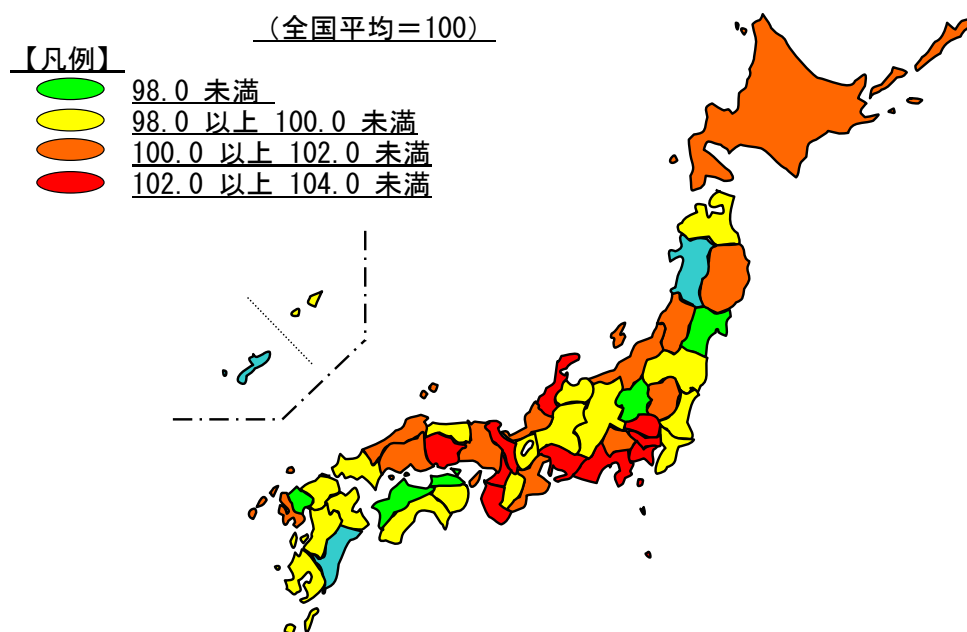


都道府県庁所在都市別にみると、高松市は総合指数で99.5となり、47都道府県庁所在都市中42位となり、食料指数でみると98.5で、同じく47都道府県庁所在都市中42位となった。

他の都市の総合指数をみると、横浜市が110.2で最も高く、次いで、東京都区部が110.0、大阪市が107.1、静岡市が105.5となった。

一方、物価水準が低い都市をみると、宮崎市が96.6で最も低く、次いで秋田市が97.5、那覇市が97.8、前橋市が98.8となった。

図28 都道府県庁所在都市別消費者物価地域差指数(総合)



## II 参 考

# 参考 1 消費者物価指数のしくみと見方

－ 利用者 の た め に －

## ●消費者物価指数とは何か

【価格と物価】 私たちは、日常生活でさまざまな商品を買ったり、サービス料金を支払ったりしています。このような一つ一つの商品やサービスの値段を『価格』といっています。

一つ一つの価格は、上がったたり下がったりまちまちの動きをします。したがって、価格全体の動きを見ようとする場合には、商品やサービスの価格を総合した平均的な水準を測定することが必要となってきます。この平均的な水準を『物価』あるいは『物価水準』と呼んでいます。

【物価指数】 このように、物価はたくさんの商品やサービスの価格を総合したものですから、物価そのものを何円というような形で表すことはできません。そこで、基準となる時点を決め、この時点の物価水準と比較しようとする時点の物価水準とを比べ、比率で示したものが『物価指数』です。このような物価指数の代表的なものとしては、消費者物価指数と卸売物価指数があります。

【消費者物価指数】 商品の価格には、流通過程に応じて、生産者価格、卸売価格、小売価格があります。『卸売物価指数』は卸売段階の物価変動を示します。

これに対して、『消費者物価指数』は、消費者が購入する商品の小売価格やサービスの料金を総合した物価の変動を時系列的にとらえるものです。言い換えれば、私たちの家庭が日常生活で購入する食料品、衣料品、電気製品などの商品や、授業料、家賃、バス代、理髪科などのサービス料金の価格の動きを全体としてまとめて示すものです。したがって、世帯で購入する商品とサービスの種類や購入数量の変化に伴う世帯の生活費の変化を測定するものではありません。



## ●消費者物価指数の作り方

【買物かごの費用を比べる】 まず、基準となる時点（基準時）を決めます。現行の消費者物価指数では平成17年1年間です。この基準時に、世帯で実際に購入した品物（商品やサービス）を家計簿で調べ、これを買物かごに入れたと考えて、買物かごの中の品物を購入するのに要した費用を計算しておきます。次に、比較する時点（比較時）で基準時と同じ品物を同じだけ買いそろえて買物かごに入れ、その費用を計算します。この両時点での買物かごの費用を比べ、比率の形で表したものが消費者物価指数です。二つの時点における買物かごの中身はまったく同じですが、中の品物の価格は値上がりしたり値下がりしたりしていますから、全体の費用も違ってきます。全体の費用が増えれば指数は上昇することになります。

下の例では、基準時を100として、比較時の指数値は105.0となりました。これは、基準時に比べて物価が5%上昇したことを示しているわけです。このように、基準時の買物かごを用いて、基準時と比較時の両時点でその買物かごの費用を計算し、それを比率の形で表す算式を『ラスパイレス算式』と呼び、また、買物かごの費用を比べるところから『マーケット・バスケット方式』とも言います。なお、ラスパイレスとは、この算式を考案したドイツの経済学者の名前です。



総費用 280,000円  
消費者物価指数 100.0



総費用 294,000円  
消費者物価指数 105.0

$$\text{消費者物価指数} = \frac{\text{比較時の費用}}{\text{基準時の費用}} \times 100 = \frac{294,000\text{円}}{280,000\text{円}} \times 100 = 105.0$$

(参考) 実際の指数計算には、ラスパイレス算式を次のように変形して用いています。

$$I_t = \frac{\sum P_t Q_0}{\sum P_0 Q_0} = \frac{\sum \frac{P_t}{P_0} P_0 Q_0}{\sum P_0 Q_0} = \frac{\sum \frac{P_t}{P_0} W_0}{\sum W_0}$$

I・・・各品目の指数

P・・・各品目の価格

Q・・・各品目の数量

<sub>0</sub>・・・基準時

<sub>t</sub>・・・比較時

W・・・各品目のウェイト

( $W_0 = P_0 \cdot Q_0$ )

(基準時の各品目の費用)

## ●指数品目の選び方と価格調査

【指数品目の選び方】 消費者物価指数を計算するには、買物かごの中にどのような品物を入れるかを決めなければなりません。私たちの家庭で購入するすべての商品をカバーすれば、それにこしたことはありませんが、数限りない商品をカバーすることは不可能なことです。そこで、家計からみて重要な品物を代表として選び買物かごに入れることとなります。この選ばれた品物を『指数品目』と呼んでいます。指数品目には、全国の家計の実態を調べる「家計調査」（国の指定統計）の結果から、重要度の高いものを選びます。現行の指数では、平成17年1年間の家計調査の結果をもとに次のような基準で584品目を選んでいきます。

- ①家計支出上重要度が高い。
- ②価格変動の面で代表性がある。
- ③継続して調査が可能である。

このようにして買物かごの中身を決めますが、これを長期間固定しておく、生活の実態が正しく反映されなくなってくるので、5年ごとに消費実態に合わせて中身を新しくすることにしています。

(参照→ II参考4. 調査品目及び基本銘柄一覧)

【税金や財産購入などは含めない】 消費者物価指数は、私たちの家庭が消費する商品やサービスの物価の変動を測定するものですから、指数品目は消費支出の範囲に限っています。

したがって、税金や社会保障費などの支出（非消費支出）や、貯金、土地・住宅購入など貯蓄及び財産購入のための支出は指数品目の範囲から除いています。

【持家の住宅費用は含めます】 住宅や土地の購入費は、消費支出ではないといただきましたが、持家に住んでいる世帯は、その所有する住宅からのサービスを現実を受けていることは借家の場合と変わりありません。もし、持家世帯が住んでいる住宅を借家だと仮定すれば、当然家賃を支払わねばならないわけですから、持家の住宅から得られるサービスに見合うものとしてその価値を見積もって、これを住宅費用とみなす考え方が成り立ちます。

このような考え方について、持家の住宅を借家とみなした場合支払われるであろう家賃（『帰属家賃』）を昭和60年基準の指数からその対象に含めることにしました。

【ウエイトの決め方】 消費者物価指数は、私たちの消費生活にとって重要な商品の一つの買物かごに入れて、その買物かご全体の費用が物価の変動によってどう変わるかを測るものです。そこで、それぞれの品目が家計支出上どれくらいの重要度をもつかを考慮する必要があります。この重要度を『ウエイト』といい、現行の指数では、平成17年1年間の家計調査の結果より、家計支出額に占める個々の品目ごとの支出金額の割合に基づいています。ただし、生鮮食品（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物）については季節によって支出金額や購入数量が著しく変わるため月別ウエイトを用いています。これについては、平成16年及び17年の2年間平均の購入数量を利用しています。

（参照→ II参考3.中分類別ウエイト）

【価格調査】 毎月消費者物価指数を作成するためには、毎月指数品目の価格を調べなければなりません。これには、「小売物価統計調査」（国の指定統計）によって調査された小売価格を用いています。この調査は、全国 167市町村を指定して行われており、約30,000の価格調査店舗及び事業所、約23,000の家賃調査世帯を対象に毎月調査しています。

調査日は、毎月12日を含む週の水、木、金曜日のうち、いずれか1日です。ただし、生鮮魚介、野菜、果物及び切り花のうち約45品目については、毎月上旬、中旬及び下旬の旬別に調査を行うこととしており、それぞれ5日、12日及び22日を含む各週の水、木、金曜日のうち、いずれか1日を調査日とし、調査日を含む前3日間の中値を調査しています。

このようにして、毎月調査される価格数は約 253,000にのぼります。

高松市においては、現在、約300店舗及び事業所、約150世帯、5ホテルが調査対象となっています。

なお、一部品目の価格又は料金（電気代、鉄道運賃、たばこ等）については、総務省統計局で調査される全国あるいは地方統一の価格が用いられています。

【指数の公表】 消費者物価指数は、原則として毎月26日を含む週の金曜日に総務省統計局より公表されています。公表内容は、全国の前月分指数と東京都区部の当月分中旬速報値です。また、12月分及び3月分公表時には、年平均指数及び年度平均指数がそれぞれ公表されます。

県では、総務省統計局と同じ日に高松市の前月分指数を公表しています。

◇県における公表資料◇

- ・高松市消費者物価指数速報 . . . 毎月
- ・高松市消費者物価指数の動き（年報） . . . 3月

## ●消費者物価指数の種類

作成されている指数で主なものは次のとおりです。

【基本分類指数】 総合指数のほかに、食料、住居、光熱・水道、家具・家事用品、被服及び履物、保健医療、交通通信、教育、教養娯楽、諸雑費の10大費目指数があります。さらに、10大費目指数を54の中分類に分けた指数も作成されています。この中分類指数は、物価変動を項目別に詳しく調べるのに用いられています。

【財・サービス分類指数】 指数品目を財であるか、サービスであるか、また、どのような産業で作られているかなどに着目し、供給側の視点から組み替え分類したものが財・サービス分類指数で、全国平均及び東京都区部について作成されています。この指数は、財をさらに農水畜産物、工業製品、電気・都市ガス・水道、出版物に、サービスを公共サービス、一般サービスに分けて作成されており、物価変動の要因を探るのに便利です。

【地域差指数】 全国平均の物価を基準（＝100）として、持家の帰属家賃を除く総合指数、食料指数及び家賃を除く総合指数について毎年1回作成されています。また、これらの指数を東京都区部の指数で除して求めた東京都区部基準（＝100）の指数もあわせて作成されています。この指数は、他が消費者物価の時間的な変動を示すのに対し、物価水準の場所的な差、地域間格差をみることができます。

## ●消費者物価指数の見方

【物価の変動は上昇率で表す】 ある月の物価を前月または前年の同じ月と比べたり、ある年の物価を前年と比べるというように、2時点間の物価の上がり下がりを表すには、『上昇率』を用いて何パーセントの上昇（または下落）といいます。

例えば、高松市の平成21年8月の前月に対する上昇率は次のように計算します。

$$\begin{aligned} \text{上昇率(\%)} &= \frac{\text{8月の指数} - \text{7月の指数}}{\text{7月の指数}} \times 100 \\ &= \frac{102.7 - 102.5}{102.5} \times 100 = 0.2 (\%) \end{aligned}$$

【寄与度は影響の度合いを示す】 『寄与度』は、ある品目や項目の値動きが物価全体の上昇に対してどれだけ影響を与えるかを計算したもので、品目や項目の上昇率の大きさ、ウェイトの大きさ、指数値の大きさによって決まります。値動きした各品目の寄与度の合計は、総合指数の上昇率に一致するようになっています。

また、総合指数の上昇率を100として、各品目の寄与度を100分比で表わしたものを『寄与率』といいます。

$$\begin{aligned}
 \text{A項目の寄与度} &= \frac{\text{当期のA項目指数} - \text{前期のA項目指数}}{\text{前期の総合指数}} \\
 &\times \frac{\text{A項目ウェイト}}{\text{総合ウェイト}} \times 100 \\
 \text{A項目の寄与率(\%)} &= \frac{\text{A項目の寄与度}}{\text{総合上昇率}} \times 100 \\
 &= \frac{\text{当期のA項目指数} - \text{前期のA項目指数}}{\text{当期の総合指数} - \text{前期の総合指数}} \\
 &\times \frac{\text{A項目ウェイト}}{\text{総合ウェイト}} \times 100
 \end{aligned}$$

【接続指数】 消費者物価指数は、その時々々の消費構造の変化をより正確に反映させて計算できるように、5年ごとに基準時が改正されています。基準時が改正されると、旧基準時で計算された指数と改正後の指数とをそのまま比較することは出来ません。このため、基準時の改正のつど、新しい基準時に合わせて過去の指数系列が計算し直されています。この計算し直された旧基準の指数を『接続指数』といいます。

現行の平成17年を基準とする指数は、平成18年7月分から公表されており、これに接続させるため、平成18年6月より前の基準で公表された指数は、平成17年を100とした指数に換算されています。

接続の方法は、平成12年基準による指数を平成17年基準指数に接続する場合、平成17年基準指数を、平成12年基準による平成17年平均指数で除するという比例換算です。

$$\text{17年基準による指数} = \text{12年基準による指数} \div \frac{\text{12年基準による17年平均指数}}{100}$$

平成12年より前の基準の指数は、基準時改正の回数だけこの方法をくり返すことによって接続します。

<接続指数利用上の注意>

- ・ 接続指数は、総合、中分類、あるいは品目の各指数系列について独立に接続が行われています。したがって、接続指数を加重平均しても上位の分類の指数値と一致しない場合があります。
- ・ 上昇率については、過去の基準の指数で算出し、公表されたものを変えずにそのまま使用しています。したがって、接続指数を用いてこれらを計算し直した場合、公表数値と一致しない場合があります。

## 参考2 中分類別ウエイト (高松市・全国)

(平成17年基準指数)

品 目	ウエイト		品 目	ウエイト	
	高松市	全 国		高松市	全 国
総 合	10000	10000	保 健 医 療	508	448
食 料	2499	2586	医薬品・健康保持用摂取品	110	122
穀 類	235	219	保健医療用品・器具	91	86
魚 介 類	215	245	保健医療サービス	307	241
うち生鮮魚介	134	148	交 通 ・ 通 信	1266	1392
肉 類	198	198	交 通	193	250
乳 卵 類	117	109	自 動 車 等 関 係 費	708	778
野 菜 ・ 海 藻	237	273	通 信	366	364
うち生鮮野菜	142	166	教 育	339	364
果 物	94	103	授 業 料 等	234	273
うち生鮮果物	91	98	教科書・学習参考教材	8	10
油脂・調味料	93	101	補 習 教 育	97	81
菓 子 類	221	217	教 養 娛 楽	1161	1100
調 理 食 品	256	283	教養娯楽用耐久材	113	118
飲 料	139	145	教養娯楽用品	244	233
酒 類	118	136	書 類 ・ 他 の 印 刷 物	161	161
外 食	576	555	教養娯楽サービス	643	588
住 居	2068	2039	諸 雑 費	659	586
うち持家の帰属家賃を除く住居	740	616	理 美 容 サ ー ビ ス	145	129
家 賃	1598	1766	理 美 容 用 品	142	134
うち持家の帰属家賃を除く家賃	270	344	身 の 回 り 用 品	78	73
設 備 修 繕 ・ 維 持	470	272	た ば こ	54	63
光 熱 ・ 水 道	617	676	他 の 諸 雑 費	239	187
電 気 代	300	292	生 鮮 食 品	367	412
ガ ス 代	156	171	生鮮食品を除く総合	9633	9588
他 の 光 熱	25	53	生鮮食品を除く食料	2132	2174
上 下 水 道 料	135	160	持家の帰属家賃及び生鮮食品を除く総合	8305	8165
家 具 ・ 家 事 用 品	361	344	教 育 関 係 費	441	439
家 庭 用 耐 久 材	131	111	教 養 娛 楽 関 係 費	1240	1214
室 内 装 備 品	36	33			
寝 具 類	20	29			
家 事 雑 貨	71	71			
家 事 用 消 耗 品	73	71			
家 事 サ ー ビ ス	31	30			
被 服 及 び 履 物	520	464			
衣 料	240	209			
和 服	19	17			
洋 服	221	192			
シャツ・セーター・下着類	154	140			
シャツ・セーター類	110	97			
下 着 類	43	42			
履 物 類	51	50			
他 の 被 服 類	40	35			
被 服 関 連 サ ー ビ ス	36	31			

参考3 基本分類表

大分類	中分類	品目
食料		
	穀類	うるち米(国産米A、国産米B、ブレンド米)、もち米 食パン、あんパン、カレーパン ゆでうどん、干しうどん、スパゲッティ、即席めん、生中華めん 小麦粉、もち
	魚介類	まぐろ、あじ、いわし、かつお、かれい、さけ、さば、さんま、たい、ぶり、いか、たこ、えび、あさり、かき(貝) ほたて貝 塩さけ、たらこ、しらす干し、干しあじ、丸干しいわし、煮干し、ししゃも 揚げかまぼこ、ちくわ、かまぼこ かつお節、魚介漬物、魚介つくだ煮、魚介缶詰、塩辛
	肉類	牛肉A、牛肉B、豚肉A、豚肉B、鶏肉、レバー ハム、ソーセージ、ベーコン
	乳卵類	牛乳(配達)、牛乳(店頭売り) 粉ミルク、ヨーグルト、バター、チーズ、チーズ(輸入品) 鶏卵
	野菜・海藻	キャベツ、ほうれんそう、はくさい、ねぎ、レタス、ブロッコリー、もやし、アスパラガス、かんしょ、ばれいしょ さといも、だいこん、にんじん、ごぼう、たまねぎ、れんこん、ながいも、えだまめ、さやいんげん、かぼちゃ きゅうり、なす、トマト、ピーマン、生しいたけ、えのきだけ、しめじ あずき、干しいたけ、のり、わかめ、こんぶ、ひじき 豆腐、油揚げ、納豆 こんにゃく、梅干し、だいこん漬、はくさい漬、福神漬、キムチ、こんぶつくだ煮、スイートコーン缶詰
	果物	りんごA、りんごB、みかん、グレープフルーツ、オレンジ、レモン、いよかん、なし、ぶどうA、ぶどうB かき(果物)、もも、すいか、メロン、いちご、バナナ、キウイフルーツ、さくらんぼ
	油脂・調味料	果物缶詰 食用油、マーガリン 食塩、しょう油、みそ、砂糖、酢、ソース、ケチャップ、マヨネーズ、ジャム、カレールウ、乾燥スープ 風味調味料、ふりかけ、液体調味料、中華合わせ調味料
	菓子類	ようかん、まんじゅう、だいふく餅、カステラ、ケーキ、ゼリー、プリン、シュークリーム せんべい(うるち米粉)、せんべい(小麦粉)、ビスケット、ポテトチップス、キャンデー、チョコレート アイスクリーム、落花生、チューインガム
	調理食品	弁当(すし)、弁当(すし以外)、おにぎり、調理パン、冷凍調理ピラフ、調理パスタ うなぎかば焼き、サラダ、コロッケ、カツレツ、からあげ、ぎょうざ、冷凍調理コロッケ、冷凍調理ハンバーグ 調理カレー、混ぜごはんのもと、煮豆
	飲料	緑茶、紅茶、茶飲料 インスタントコーヒー、コーヒー豆、コーヒー飲料 果実ジュース、果汁入り飲料、野菜ジュース、炭酸飲料、乳酸菌飲料A、乳酸菌飲料B、ミネラルウォーター スポーツドリンク
	酒類	清酒、焼酎、ビール、発泡酒、ウイスキー、ぶどう酒、ぶどう酒(輸入品)、チューハイ ビール風アルコール飲料
	外食	うどん(外食)、中華そば、スパゲッティ(外食)、すし(回転すし)、すし(回転すし以外)、親子どんぶり 天どん、カレーライス、牛どん、えびフライ、ぎょうざ(外食)、ハンバーグ、焼肉、お子様ランチ ハンバーガー、サンドイッチ、ピザバイ、ドーナツ、コーヒー(外食)、ビール(外食) 学校給食(小学校低)、学校給食(小学校高)、学校給食(中学校)

参考3 基本分類表

大分類	中分類	品目
住居		
	家賃	民営家賃(木造小住宅), 民営家賃(木造中住宅), 民営家賃(非木造小住宅), 民営家賃(非木造中住宅) 公営家賃, 都市再生機構・公社家賃 持家の帰属家賃(木造小住宅), 持家の帰属家賃(木造中住宅), 持家の帰属家賃(非木造小住宅) 持家の帰属家賃(非木造中住宅)
	設備修繕・維持	浴槽, 温水洗浄便座, 給湯機, システムキッチン, 板材, 塗, 錠 量表取替費, 水道工事費, 左官手間代, 塀工事費, 植木職手間代, 板ガラス取替費, ふすま張替費, 大工手間代 ルームエアコン取付け料 火災保険料
光熱・水道		
	電気代	電気代
	ガス代	都市ガス代, プロパンガス
	他の光熱	灯油
	上下水道料	水道料, 下水道料
家具・家事用品		
	家庭用耐久財	電子レンジ, 電気炊飯器, 電気ポット, ガステーブル, 電気冷蔵庫, 電気掃除機, 電気洗濯機(全自動洗濯機) 電気洗濯機(洗濯乾燥機), 電気アイロン ルームエアコン, 温風ヒーター, 電気カーペット 整理だんす, 食堂セット, 食器戸棚
	室内装備品	置時計, 照明器具, カーペット, カーテン
	寝具類	ベッド, 布団, 毛布, 敷布, 布団カバー
	家事雑貨	飯茶わん, 皿, コーヒーわん皿, ガラスコップ, ワイングラス 台所用密閉容器, なべ, やかん, たわし, レンジ台 蛍光灯, タオル, ビニールホース, 浄水器, 蛍光灯
	家事用消耗品	ティシュペーパー, トイレトペーパー 台所用洗剤, 洗濯用洗剤 ラップ, ポリ袋, 殺虫剤, 防虫剤, 柔軟仕上げ剤, 芳香剤, キッチンペーパー
	家事サービス	家事代行料 し尿処理手数料, 粗大ごみ処理手数料 モップレンタル料
被服及び履物		
	和服	婦人着物, 婦人帯
	洋服	背広服(夏物), 背広服(冬物), 男子上着, 男子ズボン(夏物), 男子ズボン(冬物), 男子ズボン(ジーンズ) 男子コート, 男子学校制服 婦人スーツ(春夏物), 婦人スーツ(秋冬物), ワンピース(春夏物), ワンピース(秋冬物), 婦人上着 スカート(春夏物), スカート(秋冬物), 婦人スラックス(冬物), 婦人スラックス(ジーンズ), 婦人コート 女子学校制服 男児ズボン, 女児スカート(夏物), 女児スカート(冬物), 乳児服
	シャツ・セーター類	ワイシャツ(長袖), ワイシャツ(半袖), スポーツシャツ(長袖), スポーツシャツ(半袖), 男子セーター ブラウス(長袖), ブラウス(半袖), 婦人Tシャツ(長袖), 婦人Tシャツ(半袖), 婦人セーター(長袖) 婦人セーター(半袖) 子供Tシャツ(長袖), 子供Tシャツ(半袖)

参考3 基本分類表

大分類	中分類	品目
<b>被服及び履物</b>		
	下着類	男子シャツ, 男子ブリーフ, 男子パジャマ ブラジャー, 婦人ショーツ, スリッパ 子供シャツ
	履物類	男子靴, 婦人靴, 子供靴, 運動靴(大人用), 運動靴(子供用), サンドル, 草履
	他の被服類	帽子, ネクタイ, マフラー, 男子靴下, 婦人ストッキング, 婦人ソックス, ベルト
	被服関連サービス	洗濯代(ワイシャツ), 洗濯代(背広服上下), 履物修理代, 被服賃借料
<b>保健医療</b>		
	医薬品・健康保持用摂取品	感冒薬, 解熱鎮痛剤, 胃腸薬, ビタミン剤A, ビタミン剤B, ドリンク剤, 皮膚病薬, はり薬, 目薬, 漢方薬 鼻炎薬, サプリメント
	保健医療用品・器具	紙おむつ, 生理用ナプキン, 浴用剤, コンタクトレンズ用剤, 眼鏡, コンタクトレンズ, ヘルスメーター, 体温計
	保健医療サービス	診療代, 出産入院料(国立), 出産入院料(公立), マッサージ料金, 人間ドック受診料
<b>交通・通信</b>		
	交通	鉄道運賃(JR)[普通運賃(JR, 在来線), 普通運賃(JR, 新幹線), 料金(JR, 在来線), 料金(JR, 新幹線) 通学定期(JR), 通勤定期(JR)] 鉄道運賃(JR以外)[普通運賃(JR以外), 通学定期(JR以外), 通勤定期(JR以外)], バス代, タクシー 航空運賃, 有料道路料金[高速自動車国道料金, 都市高速道路料金]
	自動車等関係費	軽乗用車, 小型乗用車A, 小型乗用車B, 小型乗用車(輸入品), 普通乗用車, 普通乗用車(輸入品) 自転車 ガソリン, 自動車タイヤ, 自動車バッテリー, 自動車ワックス, カーナビゲーション, 自動車整備費(定期点検) 自動車整備費(バンク修理), 自動車オイル交換料, 車庫借料, 駐車料金, 自動車免許手数料, レンタカー料金 自動車保険料(自賠責), 自動車保険料(任意)
	通信	郵便料[はがき, 封書, 速達, 書留, 小包], 固定電話通信料, 携帯電話通信料, 運送料, 固定電話機, 移動電話機
<b>教育</b>		
	授業料等	PTA会費(小学校), PTA会費(中学校), 私立中学校授業料, 公立高校授業料, 私立高校授業料, 国立大学授業料 私立大学授業料, 私立短期大学授業料, 公立幼稚園保育料, 私立幼稚園保育料, 専門学校授業料
	教科書・学習参考教材	教科書, 学習参考教材
	補習教育	補習教育(小学校), 補習教育(中学校), 補習教育(高校・予備校)
<b>教養娯楽</b>		
	教養娯楽用耐久財	テレビ(ブラウン管), テレビ(薄型), ステレオセット, 携帯オーディオ機器, DVDレコーダー パソコン(デスクトップ型), パソコン(ノート型), パソコン用プリンタ, カメラ, ビデオカメラ, ピアノ 学習机, テレビ修理代
	教養娯楽用品	ボールペン, マーキングペン, ノートブック, アルバム, OA用紙, セロハン粘着テープ, 筆入れ ゴルフクラブ, サッカーボール, グローブ, テニスラケット, 釣ざお, トレーニングパンツ, 水着 家庭用ゲーム機(据置型), 家庭用ゲーム機(携帯型), 人形, がん具自動車, 組立がん具 切り花(カーネーション), 切り花(きく), 切り花(バラ) フィルム, オーディオ記録媒体, 録画用DVD, コンパクトディスク, DVDソフト, ペットフード(ドッグフード) ペットフード(キャットフード), 植木鉢, 園芸用土, 乾電池, プリンタ用インク

参考3 基本分類表

大分類	中分類	品目
教養娯楽		
	書籍・他の印刷物	新聞代[地方・ブロック紙, 全国紙] 少年誌, 趣味教養誌, 生活情報誌, パソコン誌, 女性誌, 週刊誌 辞書, 単行本A, 単行本B
	教養娯楽サービス	宿泊料 外国パック旅行 月謝(英会話), 月謝(書道), 月謝(音楽), 月謝(ダンス), 月謝(水泳), 月謝(料理), 自動車教習料 放送受信料(NHK), 放送受信料(ケーブル), 放送受信料(NHK・ケーブル以外) 映画観覧料, サッカー観覧料, プロ野球観覧料, ゴルフ練習料金, ゴルフプレー料金, テニスコート使用料 ボウリングゲーム代, プール使用料, フィットネスクラブ使用料, 美術館入館料, テーマパーク入場料, 競 カラオケルーム使用料 写真プリント代, ビデオソフトレンタル料, インターネット接続料, 獣医代
諸雑費		
	理美容サービス	温泉・銭湯入浴料, 理髪料, パーマネント代, ヘアーカット代, ヘアカラーリング代, エステティック料金
	理美容用品	電気かみそり, 歯ブラシ 化粧石けん, ボディーソープ, シャンプー, ヘアリンズ, 歯磨き 整髪料, ヘアトニック, 化粧クリームA, 化粧クリームB, 化粧水, 乳液A, 乳液B, ファンデーションA ファンデーションB, 口紅A, 口紅B, ヘアカラー
	身の回り用品	ハンドバッグ, ハンドバッグ(輸入品), 通学用かばん, 旅行用かばん 指輪, 腕時計, 腕時計修理代 男子洋傘, ハンカチーフ
	たばこ	たばこ(国産品), たばこ(輸入品)
	他の諸雑費	傷害保険料, 保育所保育料, 介護料, 印鑑証明手数料, 戸籍抄本手数料, パスポート取得料, 振込手数

## 参考 4 家計調査

### 調査の概要

#### 1. 調査の目的

家計調査は、国民生活における家計収支の実態を毎月明らかにし、各種の経済施策の評価と立案の基礎資料を得ることを目的としています。

#### 2. 調査世帯の選定

全国 168 市町村から約 9,000 世帯を無作為抽出法で選定しています。

#### 3. 調査の方法

二人以上の世帯は 6 か月間、単身世帯は 3 か月間継続して家計簿を記入します。

#### 4. 香川県下での調査

二人以上の世帯 120 世帯（高松市 96 世帯、丸亀市 24 世帯）、単身世帯 10 世帯（高松市 8 世帯、丸亀市 2 世帯）を調査しています。

#### ☆☆☆用語の説明☆☆☆

勤労者世帯……世帯主が会社、官公庁、学校、工場、商店などに勤めている世帯

勤労者以外の世帯……個人営業世帯、無職などの世帯のほか、世帯主が社長、取締役、理事など会社団体の役員である世帯

全世帯……勤労者世帯と勤労者以外の世帯を合わせたもの

実収入……実質的に資産の増加となった収入

実収入以外の受取……貯金引出額、保険金受取金、借入金、有価証券売却代金等

実支出以外の支払……貯金、保険掛金、借金返済金等

非消費支出……税金、社会保障費（共済組合費、健康保険料等）等

可処分所得……実収入－非消費支出

平均消費性向……消費支出÷可処分所得（％）

# 第1表 勤労者世帯1世帯当たり

(二人以上の世帯)

年 月	高 松 市					
	家計(実)収入			消 費 支 出		
	月 額	対前年上昇率		月 額	対前年上昇率	
		名 目	実 質		名 目	実 質
	円	%	%	円	%	%
平成19年平均	628,642	10.4	9.6	363,619	15.8	15.0
20	640,039	1.8	0.0	389,781	7.2	5.3
21	551,079	-13.9	-12.4	340,738	-12.6	-11.1
22	521,176	-5.4	-4.7	321,520	-5.6	-4.9
平成22年 1月	482,611	11.1	12.8	373,273	7.3	8.9
2	474,266	2.6	3.6	295,746	-7.2	-6.3
3	414,543	-2.2	-1.0	313,829	-9.6	-8.5
4	449,925	-21.1	-20.1	298,398	-16.3	-15.2
5	383,088	-11.4	-10.6	323,730	6.0	7.0
6	779,123	16.5	17.4	310,934	3.6	4.4
7	495,432	-24.7	-24.1	298,328	-17.4	-16.7
8	457,831	-10.4	-9.6	353,816	-2.5	-1.6
9	401,311	-5.6	-5.1	303,513	-4.4	-3.9
10	540,907	5.2	5.0	328,341	1.6	1.4
11	427,695	-1.8	-1.9	295,481	-18.0	-18.1
12	947,378	-12.1	-12.0	362,854	-6.4	-6.3

標本数が少ないため、集計結果には標本誤差があるので、利用にあたっては特に留意すること。

なお、実質化については消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いている。

# 1 か月間の収入と支出（高松市・全国）

（農林漁家世帯を含む）

全 国						年 月
家計（実）収入			消 費 支 出			
月 額	対前年上昇率		月 額	対前年上昇率		
	名 目	実 質		名 目	実 質	
円	%	%	円	%	%	
528,762	0.6	0.5	323,459	1.0	0.9	平成19年平均
534,235	1.0	-0.6	324,929	0.5	-1.1	20
518,226	-3.0	-1.5	319,060	-1.8	-0.3	21
520,692	0.5	1.3	318,315	-0.2	0.6	22
434,344	-2.0	-0.5	321,633	0.0	1.5	平成22年 1月
464,866	0.0	1.3	285,211	-3.5	-2.2	2
439,410	-0.9	0.4	352,552	2.3	3.6	3
474,616	0.2	1.6	331,621	-3.7	-2.3	4
421,413	-3.4	-2.4	303,326	-4.4	-3.4	5
733,886	4.8	5.6	297,809	-0.5	0.3	6
562,094	-2.0	-1.0	316,659	0.0	1.0	7
470,717	0.9	1.8	323,758	1.8	2.7	8
425,771	0.9	1.5	307,437	1.9	2.5	9
494,398	7.5	7.2	320,727	4.7	4.4	10
431,281	0.7	0.5	309,548	2.0	1.8	11
895,511	-1.3	-1.4	349,495	-2.7	-2.8	12

第2表 1世帯当たり平均1か月間の  
(二人以上の世帯)

項 目	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年平均		
	平 均	平 均	平 均	実 数	対前年上昇率	
					名 目	実 質
集 計 世 帯 数	94	95	95	95	-	-
世 帯 人 員 ( 人 )	2.96	2.97	2.92	2.93	-	-
有 業 人 員 ( 人 )	1.30	1.33	1.22	1.21	-	-
世 帯 主 の 年 齢 ( 歳 )	53.3	53.8	57.0	55.2	-	-
	円	円			%	%
消 費 支 出	344,024	325,338	308,221	313,848	1.8	2.5
食	65,828	67,351	63,514	63,276	-0.4	-0.3
穀 類	6,030	6,509	6,463	5,834	-9.7	-8.7
魚 介 類	6,007	6,573	6,043	5,334	-11.7	-10.3
肉 類	6,154	6,833	6,154	5,909	-4.0	-3.0
乳 卵 類	3,114	3,378	3,285	3,336	1.6	0.8
野 菜 ・ 海 藻	7,019	7,307	6,922	7,158	3.4	-0.9
果 物	2,585	2,553	2,508	2,197	-12.4	-16.2
油 脂 ・ 調 味 料	2,866	3,094	3,110	3,060	-1.6	1.3
菓 子 類	4,753	4,759	4,762	4,671	-1.9	-2.5
調 理 食 品	7,308	7,064	7,099	6,664	-6.1	-5.4
飲 料	3,614	3,402	3,366	3,641	8.2	11.5
酒 類	2,424	3,057	2,349	2,488	5.9	6.4
外 食	13,954	12,821	11,453	12,983	13.4	13.3
住	13,691	17,999	15,363	16,735	8.9	9.2
家 賃 地 代	9,860	10,630	8,797	13,026	48.1	48.1
設 備 修 繕 ・ 維 持	3,831	7,369	6,566	3,709	-43.5	-42.9
光 熱 ・ 水 道	20,404	22,173	20,294	21,416	5.5	6.0
電 気 代	9,757	11,025	9,908	10,516	6.1	8.4
ガ ス 代	5,459	5,499	5,399	5,571	3.2	5.6
他 の 光 熱	820	872	617	780	26.4	7.5
上 下 水 道 料	4,368	4,778	4,370	4,550	4.1	1.6
家 具 ・ 家 事 用 品	11,590	11,009	11,294	10,676	-5.5	-2.6
家 庭 用 耐 久 財	4,011	4,227	4,217	4,001	-5.1	0.3
室 内 装 備 ・ 装 飾 品	1,131	886	606	653	7.8	5.8
寢 具 類	1,205	672	809	728	-10.0	-7.0
家 事 雑 貨	2,116	2,043	2,027	1,981	-2.3	-0.4
家 事 用 消 耗 品	2,182	2,115	2,165	2,075	-4.2	0.1
家 事 サ ー ビ ス	945	1,064	1,471	1,237	-15.9	-15.9
被 服 及 び 履 物	17,142	14,398	12,842	12,883	0.3	2.9
和 服	459	300	582	83	-85.7	-85.0

標本数が少ないため、集計結果には標本誤差があるので、利用にあたっては特に留意すること。

なお、実質化については、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合及び中分類指数）を用いている。

支出（全世帯） 高松市  
（農林漁家世帯を含む）

項 目	平成19年 平 均	平成20年 平 均	平成21年 平 均	平成22年平均		
				実 数	対前年上昇率	
					名 目	実 質
	円				%	%
洋 服	7,033	5,664	4,780	5,172	8.2	9.5
シャツ・セーター類	3,638	3,142	2,579	2,734	6.0	12.8
下 着 類	1,423	1,250	1,216	1,168	-3.9	0.4
生 地 ・ 糸 類	221	231	174	201	15.5	-
他 の 被 服	1,212	1,140	1,098	1,056	-3.8	-7.0
履 物 類	1,806	1,786	1,654	1,622	-1.9	0.8
被服関連サービス	1,351	884	760	847	11.4	10.8
保 健 医 療	12,665	12,288	14,878	12,668	-14.9	-14.7
医 薬 品	1,608	1,505	1,525	2,458	61.2	-
健康保持用摂取品	1,008	1,040	1,375	906	-34.1	-
保健医療用品・器具	3,098	2,198	2,355	2,261	-4.0	-1.2
保健医療サービス	6,950	7,545	9,621	7,043	-26.8	-27.2
交 通 ・ 通 信	42,203	36,294	37,795	42,070	11.3	9.9
交 通	6,150	4,330	4,055	4,642	14.5	15.7
自動車等関係費	23,376	18,942	21,450	24,437	13.9	10.7
通 信	12,677	13,022	12,289	12,991	5.7	6.3
教 育	14,958	11,987	11,099	11,073	-0.2	12.3
授 業 料 等	10,802	8,694	6,850	5,733	-16.3	-0.9
教科書・学習参考教材	333	275	412	258	-37.4	-38.0
補 習 教 育	3,823	3,019	3,837	5,081	32.4	34.8
教 養 娛 楽	38,953	33,857	36,413	35,079	-3.7	-2.9
教養娯楽用耐久財	6,078	3,416	4,295	6,395	48.9	80.3
教養娯楽用品	6,739	6,319	6,366	6,269	-1.5	-1.6
書籍・他の印刷物	4,870	4,295	4,282	4,098	-4.3	-4.5
教養娯楽サービス	21,266	19,827	21,469	18,317	-14.7	-14.6
そ の 他 の 消 費 支 出	106,590	97,982	84,730	87,971	3.8	-
諸 雑 費	29,130	27,601	24,447	25,601	4.7	3.9
こづかい(使途不明)	27,131	22,420	18,137	21,847	20.5	-
交 際 費	30,511	29,469	27,781	31,120	12.0	12.8
仕 送 り 金	19,818	18,492	14,365	9,403	-34.5	-
(再掲) 教育関係費	34,982	31,996	25,171	21,556	-14.4	-
(再掲) 教養娯楽関係費	44,892	37,745	39,832	38,951	-2.2	-
現 物 総 額	11,525	9,927	10,372	11,633	12.2	-
エンゲル係数 (%)	19.1	20.7	20.6	20.2	-1.9	-

第3表 1世帯当たり平均1か月間の  
(二人以上の世帯)

項目	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年平均		
	平均	平均	平均	実数	対前年上昇率	
					名目	実質
集計世帯数	52	54	51	50	-	-
世帯人員(人)	3.23	3.31	3.42	3.21	-	-
有業人員(人)	1.56	1.55	1.57	1.50	-	-
世帯主の年齢(歳)	45.0	44.7	46.4	45.3	-	-
実収入	円				%	%
経常収入	628,642	640,039	551,079	521,176	-5.4	-4.7
勤め先収入	574,924	619,050	527,531	510,987	-3.1	-2.4
世帯主収入	548,342	594,662	499,387	468,725	-6.1	-5.4
世帯主の配偶者の収入	459,515	498,185	423,225	393,037	-7.1	-6.4
他の世帯員収入	360,251	393,201	339,057	325,692	-3.9	-3.2
世帯主の配偶者の収入	72,991	77,806	49,718	43,182	-13.1	-12.5
他の世帯員収入	15,836	18,670	26,444	32,505	22.9	23.8
事業・内職収入	2,016	8,774	1,049	280	-73.3	-73.1
農業・漁業収入	0	216	0	0	0.0	0.0
他の経常収入	24,567	15,398	27,095	41,982	54.9	56.0
特別収入	53,718	20,990	23,548	10,189	-56.7	-56.4
実収入以外受取	519,034	552,117	443,237	390,805	-11.8	-11.2
実支出	465,073	506,503	431,393	405,686	-6.0	-5.3
消費支出	363,619	389,781	340,738	321,520	-5.6	-4.9
食料	65,653	71,017	67,462	62,275	-7.7	-7.6
穀類	5,787	6,471	6,822	5,448	-20.1	-19.2
魚介類	5,022	5,594	5,285	4,191	-20.7	-19.4
肉類	6,204	7,345	6,868	5,580	-18.8	-18.0
乳卵類	2,942	3,466	3,299	3,216	-2.5	-3.3
野菜・海藻	6,089	6,945	6,710	6,100	-9.1	-12.8
果物	1,992	1,939	1,908	1,678	-12.1	-15.9
油脂・調味料	2,748	3,161	3,147	2,725	-13.4	-10.8
菓子類	5,213	5,319	5,335	5,044	-5.5	-6.1
調理食料	7,066	7,386	7,451	6,837	-8.2	-7.6
飲酒	3,793	3,870	3,659	3,754	2.6	5.8
酒類	2,752	3,450	2,039	1,947	-4.5	-4.0
外食	16,045	16,073	14,940	15,756	5.5	5.4
住居代	15,979	25,150	21,484	19,147	-10.9	-10.6
家賃	13,114	16,177	14,404	17,653	22.6	22.6
設備修繕・維持	2,865	8,973	7,080	1,494	-78.9	-78.7
光熱・水道代	19,783	21,778	21,315	20,529	-3.7	-3.2
電気	9,067	10,380	9,931	9,781	-1.5	0.6
ガスの光熱	5,637	5,966	5,976	5,852	-2.1	0.2
他の光熱	801	731	645	594	-7.9	-21.7
上下水道料	4,277	4,702	4,763	4,301	-9.7	-11.9
家具・家事用品	10,840	12,202	11,148	9,614	-13.8	-11.1
家庭用耐久財	3,865	4,367	3,982	2,948	-26.0	-21.8
室内装備・装飾品	1,094	1,182	594	477	-19.7	-21.2
寝具	682	817	764	713	-6.7	-3.6
家事雑貨品	2,163	2,482	2,084	2,130	2.2	4.2
家事用消耗品	2,167	2,304	2,349	2,131	-9.3	-5.2
家事用サバイバル	869	1,051	1,375	1,215	-11.6	-11.6
被服及び履物	16,124	17,754	13,886	14,121	1.7	4.3
和服	75	92	76	15	-80.3	-79.4
洋服	6,861	7,116	5,440	5,813	6.9	7.7

標本数が少ないため、集計結果には標本誤差があるので、利用にあたっては特に留意すること。  
なお、実質化については、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合及び中分類指数）を用いている。

# 収入と支出（勤労者世帯） 高松市

（農林漁家世帯を含む）

項 目	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年平均		
	平 均	平 均	平 均	実 数	対前年上昇率	
					名 目	実 質
	円				%	%
シャツ・セーター類	3,325	3,966	2,691	2,942	9.3	16.3
下 着 類	1,347	1,413	1,348	1,249	-7.3	-3.1
生 地 ・ 糸 類	148	219	134	143	6.7	-
他 の 被 服	1,350	1,389	1,318	1,079	-18.1	-20.8
履 物 類	1,837	2,488	2,038	1,900	-6.8	-4.2
被 服 関 連 サ ー ビ ス	1,181	1,071	841	980	16.5	15.9
保 健 医 療	11,581	11,792	12,009	12,186	1.5	1.7
医 薬 品	1,551	1,227	1,296	1,675	29.2	-
健 康 保 持 用 摂 取 品	839	650	779	668	-14.2	-
保 健 医 療 用 品 ・ 器 具	3,733	2,603	2,504	2,973	18.7	22.1
保 健 医 療 サ ー ビ ス	5,459	7,311	7,430	6,870	-7.5	-8.0
交 通 ・ 通 信	54,833	46,333	49,079	43,892	-10.6	-11.7
交 通	7,459	5,614	3,977	4,632	16.5	17.7
自 動 車 等 関 係 費	32,170	26,032	29,833	23,305	-21.9	-24.1
通 信	15,204	14,687	15,270	15,955	4.5	5.1
教 育	20,587	20,009	18,557	15,920	-14.2	-3.5
授 業 料 等	16,213	14,429	11,935	9,087	-23.9	-9.9
教 科 書 ・ 学 習 参 考 教 材	489	424	768	243	-68.4	-68.7
補 習 教 育	3,885	5,156	5,854	6,590	12.6	14.7
教 養 娛 楽	41,951	41,165	33,022	33,034	0.0	0.8
教 養 娛 楽 用 耐 久 財	5,762	4,333	3,964	4,924	24.2	50.4
教 養 娛 楽 用 品	7,260	7,363	7,066	6,184	-12.5	-12.6
書 籍 ・ 他 の 印 刷 物	4,702	4,546	4,385	4,080	-7.0	-7.2
教 養 娛 楽 サ ー ビ ス	24,227	24,922	17,606	17,846	1.4	1.5
そ の 他 の 消 費 支 出	106,289	122,580	92,776	90,803	-2.1	-
諸 雑 費	26,828	30,143	24,530	26,359	7.5	6.6
こ づ かい (使 途 不 明)	32,263	33,812	30,984	30,512	-1.5	-
交 際 費	23,726	28,826	21,891	24,502	11.9	12.7
仕 送 り 金	23,471	29,800	15,371	9,431	-38.6	-
非 消 費 支 出	101,454	116,722	90,656	84,166	-7.2	-
勤 労 所 得 税	20,048	20,945	12,226	10,330	-15.5	-
他 の 税	8,690	7,978	7,119	6,812	-4.3	-
社 会 保 険 料	52,940	62,236	53,042	50,256	-5.3	-
実 支 出 以 外 の 支 払	687,541	689,408	565,774	511,163	-9.7	-
現 物 総 額	11,910	11,259	13,265	14,383	8.4	-
可 処 分 所 得	527,188	523,317	460,423	437,010	-5.1	-
黒 融 資 産 純 増	163,569	133,536	119,685	115,490	-3.5	-
金 融 資 産 純 増	126,851	26,468	90,982	89,936	-1.1	-
貯 蓄 純 増	122,918	23,802	91,900	88,593	-3.6	-
預 貯 金 純 増	90,698	275	57,263	73,995	29.2	-
保 険 純 増	32,220	23,527	34,637	14,598	-57.9	-
有 価 証 券 純 購 入	3,933	2,667	-918	1,343	-246.3	-
土 地 家 屋 借 金 純 減	-33,011	41,433	31,164	22,968	-26.3	-
月 賦 掛 買 純 減	-4,842	-3,820	-2,454	702	-128.6	-
平均 消費性向 ( % )	69.0	74.5	74.0	73.6	-	-
エンゲル係数 ( % )	18.1	18.2	19.8	19.4	-	-

